

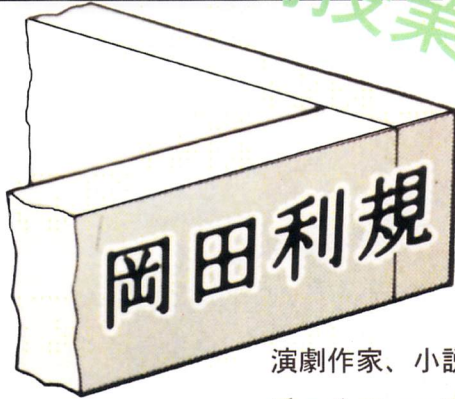
2012年7月17日 (火)

13:30~

大学会館交流室



特別授業プロジェクト



演劇作家、小説家、
チェルフィッチュ主宰



「『外に向けて表現する』というときの『外』ってなにか？」

1973年 横浜生まれ。

97年に「チェルフィッチュ」を結成。横浜を拠点に活動。より遠くに行ける可能性のある作品を生み出すため、ある方法論を持ちつつも、その方法論をそれ以上「引き寄せないように、それをいつまでも抱んでいないように、すぐに手放すように」心がけるという、それ自体が不思議な方法論で演劇作業を実践する。01年3月発表の『彼等の希望に瞳れ』（横浜 ST スポット・神奈川）を契機に、現代の若者を象徴するような日本語による台詞を使う作風に変化。さらに、04年『三月の5日間』で、第49回岸田國士戯曲賞を受賞。選考委員からは、演劇というシステムに対する強烈的な疑義と、それを逆手に取った鮮やかな構想が高く評価され、とらえどころのない日本の現在状況を巧みにあぶり出す手腕にも注目が集まった。また、チェルフィッチュ演出でみられる特異な身体性は時にダンス的とも評価され、05年『クーラー』で振付家として「トヨタコレオグラフィアワード2005~次代を担う振付家の発掘~」最終選考会に出場。ここで提示した明確なコンセプトは、これまでの“振付”という概念を裏切り、観客の議論を引き起こす結果となった。

05年9月、横浜文化賞・文化芸術奨励賞受賞。06年6月ドイツミュールハイム劇作家フェスティバルに、日本劇作家代表として参加。

07年10月神奈川文化賞・スポーツ賞において文化賞未来賞を受賞。06-07年アゴラ劇場の舞台フェスティバル「サミット」のディレクター就任。07年2月新潮社よりデビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』発表、翌年第二回大江健三郎賞受賞。また、日本の公共劇場の委嘱作品として安部公房の『友達』やデリア・ローアーの『タトゥー』の演出をてがげ、岡田独自の解釈による新たな作品の可能性に多くの注目を集めた。他劇団への戯曲提供も多数行う。

08年3月『フリータイム』をブリュッセル、ウィーン、パリとの国際共同作品として発表。カンパニー作品は、国立国際美術館30周年記念公演、森美術館主催「六本木クロッシング展」、横浜トリエンナーレに参加するなど多方面へ活動を展開する。09年7月、金沢21世紀美術館開館5周年記念展「愛についての100の物語」での委嘱作品として、塩田千春のインスタレーション作品とともに一日6時間に及ぶパフォーマンス作品『記憶の部屋について』を発表。同年10月HAJ劇場（ベルリン）との共同制作作品として、『クーラー』の拡張版『ホットペッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』を発表。

その他、桜美林大学、早稲田大学、近畿大学国際人文科学研究所／四谷アート・ステディウムなどでのワークショップやレクチャー等、講師歴も多数。

